

STAGE+を楽しむ(190)(HP 収載)

—セガンのザルツブルグ音楽祭—

1. 始めに

前報(189)に引き続き、STAGE+のセガンのザルツブルグの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のセガンのザルツブルグの演奏を選びました。

ライブ配信 2024 年 8 月 30 日 3:40

ネゼ=セガンとウィーンフィルによるベルリオーズの幻想交響曲

ザルツブルク音楽祭

再配信 2024 年 8 月 30 日 9:00

再配信 2024 年 8 月 30 日 20:00

ザルツブルク音楽祭でも常連として名を馳せるヤニック・ネゼ=セガンが、クラシック音楽史上最も画期的な作品のひとつ、ベルリオーズの幻想交響曲（1830 年）でウィーンフィルと共演します。交響曲のあるべき姿を問い直したこの作品は、アヘンに侵された芸術家の狂気に満ちた想像を、5つの楽章にわたって鮮烈に描き出し、ロマン主義の新たな方向性を切り開きました。それにより、ベルリオーズが同世代で最も革命的な芸術家の一人であるという評価は確固たるものとなっています。イメージに溢れた音色、迫力のサウンドによる魅力的な演奏をお楽しみ頂けることでしよう。

奏:

ウィーンフィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ヤニック・ネゼ=セガン

曲目:

エクトル・ベルリオーズ 幻想交響曲 op. 14



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

後日のアーカイブ配信を試聴しました。

幻想は、色彩感に富んだ曲ですが、ミュンシュ以来、ともすれば原色に近い派手な演奏が多いのですが、ウィーンフィルの演奏は、中間色も正確に描かれ、弦や木管もウィーンフィルの特色が出ています。終章の控えめな鐘の打音や厚みのある低音などもウィーンフィルらしさがあります。セガンのきびきびとした指揮がウィーンフィルの力量を引き出しています。



### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、ウィーンフ

イルらしい中間色に富んだ幻想を聴くことができました。

以上